

同友しずおか

2023

9

VOL.538

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」
「企業も地域もよくなった！」



私の逸品

静岡醤油合資会社

伝統が息づく「ヤマシラタマ」
— 静岡醤油合資会社の語り継
がれる歴史と誇り

～互いに支えあい、励ましあい、援けあう～
私たちは地域にあってよかったと言われる同友会であり続けます



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130
〒420-0857 静岡県浜松市東区三ヶ日三丁目6-6 FAX/054-255-7828 E-mail/doyo@tsdoyo.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1084 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
いたくら よし お 板倉 佳男	(株)カクイチ静岡営業所 建設業（ハウス事業、ホース事業、鉄鋼二次建材製品事業、ミネラルウォーター事業、アクアソリューション事業、ホテル事業）	沼 津	石澤 浩一
いしかわ しん じ 石川 真司	(株)旭建設 建設業（建築、土木）	富士宮	宇佐美健介
ふじなが ゆう た ろう 藤永祐太郎	Authentic Marketing 専門サービス業（WEB マーケティングコンサルタント及びマーケティングツール開発）	静 岡	江間 省豪
た た ら え り 多々良愛理	整体院 結 整体師（体の治療）	志 太	吉田 和弘
み わ ひさ お 三輪 久夫	浜松磐田信用金庫 金融業（金融機関業務全般）	浜 松	長野 哲久

※新会員の写真は e.doyo「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyo からのご確認をお願い致します。

伝統が息づく「ヤマシラタマ」 — 静岡醤油合資会社の語り継 がれる歴史と誇り

静岡醤油合資会社（静岡支部）

代表社員 陰山 明典氏



静岡醤油オリジナル商品と陰山氏



社屋の屋上にある看板には屋号のヤマシラタマ

静岡醤油合資会社は、良質な大豆と小麦を原料に大井川の豊かな伏流水で仕込んだ「ヤマシラタマ」醤油など高級醤油・各種調味料の製造・販売を行っています。遥か1775年、日本がまだ江戸時代を彩っていた頃に、駿府の醤油製造のパイオニアとして陰山七五郎氏が創業。今日まで約250年にわたり時代を越えて存在し続けています。同社が醤油作りを始めてからは既に150年の歳月が流れ、同社の醤油は静岡の調味料業界をリードする存在となっています。さらに、醤油製造だけに留まらず、味噌・たれ・ドレッシング・ところてんなど、多様な商品が

会員である陰山明典氏は平成6〜7年ごろに代表権を引き継いでから、新しい世代に対応すべく、焼肉のたれやスイート

「未来を味わう、その先へ」
— 静岡醤油の新たな一歩

ケテイング戦略を展開しています。

静岡の誇り、賞に輝く醤油
— 静岡醤油の挑戦と革新

同社の逸品のひとつに、先代の時代に開発された「再仕込み醤油」があります。口当たりがマイルドで、深いコクと旨み特徴。農林水産大臣賞など、その品質で数々の賞を受賞し、国内外から高く評価されています。そして、同社の挑戦は商品開発だけに留まりません。贈答用に力を入れ、ネットショップや通販サイトを立ち上げ、さらにはメルマガやDMを活用して、お中元やお歳暮の紹介を行うなど、デジタル時代にも対応したマーケティング戦略を展開しています。



製造は県内のメーカーと共同出資した工場で行われている

チリドレッシングなど幅広い種類のたれや醤油飴、醤油おかしなどの新商品を開発しました。家庭で手軽に使える「調理のたれ」の提供はその一つです。「調理のたれ」は旨み成分、醤油、砂糖、みりんなどがバランスよくブレンドされており、ご家庭料理の味付けがこれ一本で決まります。日々の食事にこそ「静岡醤油」の味を。若い世代が醤油の可能性を再認識する、その一端になることを目指しています。

静岡醤油合資会社
〒422-8072 静岡市駿河区小黒1-4-30
TEL: 054-282-7141
URL: <http://www.shizuoka-syouyu.co.jp>
創業 1775年
社員数 6名（パート含む）
入会年月 1997年2月
事業内容 醤油製造卸小売業（高級醤油製造卸小売、心太・かつをだし・総合調味料及び高級ギフト販売）

取材・記事：米森良偉氏
取材：藤本浩氏
（株）Regaionico・静岡支部
フリンターバリュー（株）・静岡支部
望月康仁氏
（株）エムテック・静岡支部
赤石亜紀子氏
（東風・静岡支部）

な自然と長い歴史から学び、そして今を生きる私たちの知恵と技術、情熱を注ぎ込んで、日本の食文化を一層豊かにしていきます」と今後の展望を語ってくれました。

これからも「静岡醤油」の挑戦から目が離せません。未来の醤油を共に味わう旅へ、あなたも一緒にいかがでしょうか。

会員訪問記

自身の経験を活かし起業、
販促支援から求人支援まで

ピクシス
代表 森田 拓真氏（三島支部）



ワーキングホリデー中ツアーガイドをつとめる森田氏

今回は三島市で集客・求人支援事業を行うピクシスの森田拓真氏を訪問しました。

ワーキングホリデーが起業の原点

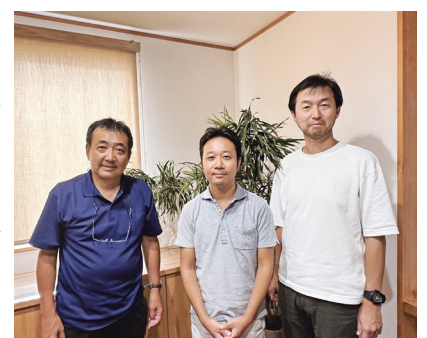
「ワーキングホリデーの経験が起業の原点ですね」そう語る森田氏は学生時代、大学から大学院へ進学するタイミングで大学院進学を1年ずらしワーキングホリデーにあててることを決め、休学しオーストラリアに向かいました。

現地ではサツマイモ農場で働いたり、日本人観光客向けのツアーガイドとして働いたりしながら、お金を貯めては旅行に行く1年間を過ごした森田氏。現地でマイクロバスの運転免許を取って運転手兼ツアーガイドをつとめたり、外国人とシェアハウスで暮らしたり新しい経験を通じて固定概念がくつがえる体験をしたと言います。

大学院進学後の就職活動では起業を見据え、多くの知見や経験を学ぶために「経営幹部募集！」と謳っていた観光土産店に就職。24時間営業の店舗に配属になった際には、日中はバイヤーとして商談、商品企画を行い、夜勤の担当の際



取材風景



（左から）秋山 敦氏、森田 拓真氏、増田 隼人氏

には経理業務やアルバイトのマネジメントを行うなど幅広い職種を経験し、吸収することができたと言います。店舗以外にも通販業務や品質管理にも携わり、4年半のサラリーマン経験でしたが様々な知見を得て独立しました。

土産品の卸売からスタート

起業時は土産品の卸売や海外ビジネスの支援からスタートしました。土産品の卸売はサラリーマン時代に付き合っていた企業に声をかけ、商品を仕入れるところから取り引きが始まりました。海外ビジネス支援は、フィリピンで事業を立ち上げたいという社長とのご縁があり、一人でフィリピンの現地へ入り現地の人に業務を指示したり、新商品開発のために上海にシェフを連れていったりと、ワーキングホリデー時代の経験を活かして商品開発の支援を行いました。その後、企業からのマーケティング支援案件が徐々に増え、コンサルティング業として業績を伸ばしています。

同友会には2017年に入会。現在は三島支部例会企画委員長と

して例会のコーディネートを行っています。支部役員から発表者や講師のオファーがあるなど、それぞれが積極的に関わってくれるため助かっているとのこと。森田氏は「異業種の方との勉強と交流は刺激的で、特に腹を割った報告バズセッションでは経営者の「本気の姿勢」が見られ、学びの場になっている」と話します。

多岐に亘る支援で企業の困りごとを解決する

「これまでお陰様で様々な業種のチラシ制作から動画の制作、HP制作やネット広告の運用など販促支援全般に携わらせていただき「商品サービスへの集客に加えて、これからは人手不足の企業に対して求人面で支援するコンサルタントとしても活躍したい」と今後の展望を語ってくれました。

取材・記事：増田 隼人氏
（株）集客デザイン研究所・三島支部
取材：秋山敦氏
（株）秋山建設・三島支部

ピクシス

〒411-0027 三島市千枚原9-8

TEL：080-6922-6050

URL：https://pyxis-grink.com

創業 2016年

社員数 1名

入会年月 2017年3月

事業内容 マーケティングディレクター

静岡大学学長が県同友会顧問に就任 日誌学長より同友会へメッセージ

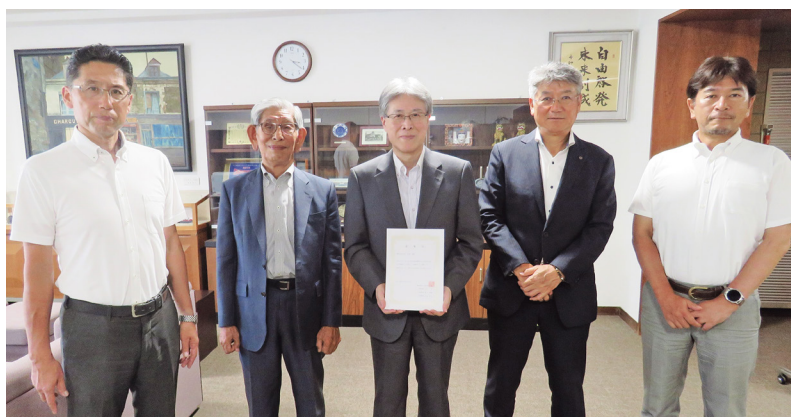
静岡同友会は設立以来、長きに亘り国立大学である静岡大学との連携を深めてきました。2008年には現顧問の山本義彦氏のご尽力のもと、相互協力協定の締結に至りました。現在まで、景気動向調査・キャリア教育・インターンシップ事業・同友会大学、そして静岡大学連携講座等、多岐に亘る連携が誕生しました。今後も益々の地域連携を進めるべく、本年6月県理事会にて、静岡大学学長を当会顧問に就任頂くことを全会一致で決定しました。顧問就任頂いた日誌一幸学長よりメッセージを頂きました。



日誌 一幸学長

この度、静岡県中小企業家同友会（静岡同友会）の顧問に就任致しました日誌です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。静岡同友会は、1974年に71名の経営者の皆様の呼びかけで設立され、来年で50周年を迎えられますが、私自身は、このように歴史と伝統のある静岡同友会の顧問への就任を仰せつかり、大変光栄に存じます。静岡大学は、1949年に新制国立大学の一つとして誕生し、間もなく75年を迎えます。静岡キャンパスには、人文社会科学部、教育学部、理学部、農学部、そして本年4月からは新たにグローバル共創科学部を加え5学部、そして浜松キャンパスには情報学部と工学部の2学部と合わせて7学部を擁する総合大学として、創設以来静岡県全体の均衡ある発展のために貢献してきました。

ところで、静岡大学は静岡同友会の皆様に、「静岡大学連携講座」等で大変お世話になっております。この講座では、静岡同友会の会員である経営者の皆様にお越しいただき、本学の学生に講義をしていただいております。私はそのことに心よりお礼を申し上げます。皆様が講義を通して学生たちに中小企業の魅力を語って下さり、このような



遠藤会長・井上・簗・松葉代表理事と学長を表敬訪問

学びの機会をご提供いただいておりますことも大変ありがたいことだと思っています。これからも本学と静岡同友会との協力関係が一層堅固に発展していくことを願っています。

さて、2020年1月に日本で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されてから、早3年以上が経過しました。その間、私たちは新型コロナウイルスがもたらす様々な脅威と闘い、ワクチンや治療薬の開発など人類の英

知を結集してこの困難な状況を乗り越えてきたと言えます。今年5月8日以降、日本政府は新型コロナウイルス感染症を5類感染症に移行し、従来課していた様々な感染予防の制約を解除しました。こうして、日本社会もようやくコロナ前の状態に戻ったように感じています。これまで日本社会は、強権的に封じ込め策を講じるのではなく、むしろwithコロナということで、コロナウイルスとの共存のもとで社会経済的機能を維持するという取り組みを進めてきました。とはいえ、この3年余の間、新型コロナウイルスによって被った社会経済的損失は計り知れないものがあつたのではないのでしょうか。しかし、このような困難な状況の中にあつても、静岡同友会の皆様が多様なネットワークを駆使し、相互に連携し合う中で、コロナ禍をもつとしない様々な取り組みを進められたことは実に見事だったと思います。このことを通して、静岡同友会の皆様の絆が一層強固なものとなったはずです。今後もこのように築かれました皆様の絆が一層強固なものとなり、静岡県経済のけん引役となりますよう心より願っています。そのために私自身も微力ながらご協力できれば幸いです。

中小企業等支援に関する包括連携協定を浜松磐田信用金庫と締結 西部地域における幅広い連携の 強化をめざす

8月9日（水） 浜松磐田信用金庫本店

静岡県中小企業家同友会（以下、同友会）は8月9日（水）、浜松磐田信用金庫と「中小企業等支援に関する包括連携協定」を取り交わしました。これで県内9信用金庫のうち、7信用金庫（東部から三島・沼津・富士・富士宮・静岡・島田掛川・浜松磐田）と協定を締結しました。

当日は浜松磐田信用金庫から高柳裕久理事長をはじめ4名、同友会からは松葉秀介代表理事をはじめ9名が出席し、調印式が執り行われました。本協定は中小企業が抱える経営上の各種課題の解決と地域の中小企業の発展を支援することで、地域経済を活性化させることを目的としています。目的の達成にむけて、（1）中小企業等への情報提供、（2）相互の研修等への参加・講師派遣、（3）地域における経済情報、動向等に関する情報交換、（4）個別企業からの相談対応、（5）その他中小企業等への支援に寄与する事項、の5点を掲げています。

松葉代表理事から「同友会には約1080社の会員が在籍しています。本協定締結を機に、浜松・中遠地区の連携を深め、西部地域の会員の輪が広がることを期待しています。また、中小企業を取り巻く環境は、

人材確保や原材料価格の高騰、エネルギー問題、デジタル化、災害対策など、中小企業1社だけでは解決が難しい課題が山積しています。そのような状況下でも私たち同友会会員が前向きに自社経営と向きあえるのは、人や地域を大切にしたいという思いがあるからです。浜松磐田信用金庫の未来への思いと同友会理念はまさに重なるものがあります。今回の協定締結が私たちにとって大変



調印式に同友会・浜松磐田信用金庫より13名が参加

大きな力になると確信しています」と挨拶しました。

続いて高柳理事長からは「同友会と連携を深めていけることを光榮に思うとともに、地域社会課題解決にむけた大きな一歩になると感じています。40年ぶりのインフレ、10年ぶりの金融政策の動きなど、中小企業を取り巻く環境は激変の時代にあります。当金庫では、2年前から伴走型支援に徹底的に取り組む、130名を超える渉外担当が在籍。また、事業承継や資産管理など社長個人を支える支援も実施し140名の担当がいます。経営支援で『ファイナンス』『マッチング』『コンサルティング』の3本柱に取り組み、経営者のパートナーとして伴走することに注力しています。本協定の締結を契機に連携とし、より一層充実した活動に繋がっていきたいと思います」とご挨拶いただきました。調印式後には交流会を開催し、終始和やかな雰囲気での情報交換がおこなわれました。また、浜松磐田信用金庫からは、9月より三輪久夫専務理事が入会（浜松支部所属）し、会活動に参画いただくことになりました。

これまで静岡同友会は、教育機関では2008年の国立大学法人静岡大学と「相互協力協定」を、また金融機関では2019年3月に当時の島田信用金庫（現島田掛川信用金庫）、2020年7月に静岡信用金庫、2020年9月に三島信用金庫、2020年10月に富士宮信用金庫、2021年5月に沼津信用金庫、2023年5月に富士信用金庫と「中小企業等支援に関する包括連携協定」を締結しています。

《当日の出席者》

浜松磐田信用金庫

- ・高柳裕久氏（理事長）
- ・三輪久夫氏（専務理事）
- ・栗田紀幸氏（ソリューション支援部副部長）
- ・小松洋一氏（地域活性課調査役）

静岡同友会

- ・松葉秀介氏（代表理事）
- ・青山達弘氏（副代表理事）
- ・塚本和成氏（副代表理事）
- ・大関 泉氏（浜松支部長）
- ・兼古東志浩氏（中遠支部長）
- ・秋山英正氏（浜松副支部長）
- ・江間省豪氏（浜松副支部長）
- ・秋山啓希氏（事務局長）



松葉秀介・静岡同友会代表理事と高柳裕久・浜松磐田信用金庫理事長

強靱な体質の同友会づくりを進め、中小企業の魅力を発信しよう！

静岡同友会は2023年

1200名会員をめざしています！

8月22日(火) ZOOM

組織づくり、仲間づくりを学びあう組織強化・会員増強全国交流会がオンラインで開催され、全国より435名、静岡から12名が参加しました。冒頭、広浜泰久中同協会長より「各地域で関係諸団体との連携が広がり、同友会運動は新たなステージに入った。地域の期待に応えるためにも質と量の両面が重要。多くの参加者と共に学び、有意義な交流会にしていきましょう」と挨拶しました。

続いて中山英敬5万名推進本部長・中同協幹事長より全国総会議案集をもとに問題提起。各県の会員推移、地域における対企業組織率の状況、2023年度の活動方針や同友会運動の将来展望(10年ビジョン)で全国会勢対企業組織率5%を目標にしていることを伝えました。静岡同友会では全国支部地区純増数で富士宮支部が15番目に入り、対企業組織率は牧之原市が14.46%、御殿場市が10.29%と高くなっています(全国で10%を超えるのは76市区町村)。

事例報告では、山梨と京都の2同友会が報告。純増率日本一を達成した山梨同友会から塩澤主税氏(仲間づくり委員長)が新会員を含め多くの人を巻き込みながら進め

た仲間づくりへの意識改革の取組みを、京都同友会の田中陽一氏(組織委員長)からは今の時代に即した同友会の良さを発信する取組みを伝えました。グループ討論では各同友会の取組みや課題の情報交換を行いました。

最後に山城真一中同協副会長から、日本労働組合総連合会の姿勢に中小企業と歩調を合わせる姿が見られることなど、同友会運動が別次元の運動になってきていることを改めて伝え「我々経営者は、数は力であることを理解していると思う。そのスタートラインは学びを実践し、課題を解決していくこと。年内に過去最高会勢を達成しましょう」とまとめがありました。

交流会参加の2名の方から感想を頂きましたのでご紹介します。



江間 省豪氏

「笑顔・前向・ありがとう」の江間省豪です。

今年度から、県組織増強委員を拝命し、同友会の活動を西部地区に持ち帰って落とし込むため、可能な行事は全て参加しています。そんな中、

開催された組織増強の全国交流会は、自社の経営課題である「組織化」にとっても大変役に立つ内容でした。何も知らない私にとって全てが新鮮で、同友会の盛んな地域を知る良い機会となりました。最も会員企業が多いのが北海道、組織率は香川県、隣りの愛知県もかなり盛んで、会員数が静岡県の約4倍、組織率が2倍であることを知りました。

山梨と京都の事例報告ではみんなで楽しく増強に取り組むことで空気が変わる。目標数値を持ったらいつまでにとどのように達成するのか数値化するなど、まさに経営と同じだと改めて気付きました。バズでは、多くの人が組織増強を前向きに捉えることが出来ていきました。そんな中、同じグループで、中同協の国吉氏から、設立当時から現在まで各地の支部づくりをされてきた経験を聞いたのは非常に良い機会でした。各グループの討論内容を全ての支部で共有し、取り入れることが出来れば、2025年1500社も必ず達成できると思います。改めて1つ1つの行事に参加することで大きな学びを頂ける同友会に感謝です！

江間 省豪氏

(データマイン(株)／県組織増強委員長・浜松支部)



磯辺 嘉将氏

今回初めて全国組織の集まりに参加しました。今まで増強につ

いてそこまで大切だと考えていませんでしたが、昨年度の富士宮支部の増強の姿勢を役員として間近で見てきて、全国ではどんな取り組みをしているのか興味が沸き、今回の出席を決めました。

事例報告では、増強の為に委員長が率先して動き、他の会員を巻き込んでいく姿勢に感銘を受けました。次までに決めるではいつまでも決まらない、誰がいつまでにやるか目標意識をしっかりと持ち、自分だけでなく周りを巻き込みながら活動していくことが大切であると感じました。新会員アカデミーや、新会員でつくるミニ例会、同期会の結成など、新しく入会した人たちの結束力を強める活動も、入会した後の積極的参加を促す為にも非常に重要だと感じました。バズの中でも「新入会員のフォローをすることでそこから新しい会員を発掘していくことが大切」という話もあり、皆の共通認識であるということも実感できました。一人でも多くの会員が入会し、経営に対する学びを深めていくことが、結果的に地域を良くしていくことに繋がります。これらの支部の為、地域の為、そして自社の為にも、増強こそが最大の地域貢献であるということを胸に、より一層積極的に活動していこうと決意したとても良いきっかけになりました。

磯辺 嘉将氏 (株)磯辺建設／富士宮支部)

中小企業庁による講演会&学習会

中小企業政策を学びあい、 行政・金融機関との連携を深める

10年後も選ばれる企業・地域を目指して

8月1日(火) Bivi 藤枝

中小企業魅力発信月間の取組みとして、県同友会主催・志太支部主幹にて中小企業庁による講演&学習会を開催しました。当日は会員・行政・金融機関あわせて45名が参加しました。冒頭、松葉秀介代表理事より「同友会の考えるよい経営環境の創造とは、行政に対して政策提言や要望を届けるだけでなく、地域の一員として自社と地域の課題を重ね合わせ、自社・業界・地域の成長を不離一体に捉えていくこと。その中で共通目標実現にむけてパートナーシップとリーダーシップを発揮していくことが大切。立場や地域の垣根を越え一層の連携に繋がるきっかけになることを期待したい」と挨拶しました。続いて、寺島雅之条例推進特別委員長から開催地である志太支部の地域連携や地域づくりの取組みを紹介。「地域経

済の活性化と国の政策は切っても切れない。地域や企業の新たなヒントに繋がる契機としたい」と参加者に伝えました。



松葉代表理事

中小企業庁
三野課長補佐

済の活性化と国の政策は切っても切れない。地域や企業の新たなヒントに繋がる契機としたい」と参加者に伝えました。

その後「中小企業への期待」現在、そして今後の中小企業政策」をテーマに、中小企業庁事業環境部企画課・三野翔平課長補佐より講演を賜りました。経済・社会の構造変化が叫ばれる中、中小企業の飛躍的成長を期待し、事業者、行政、支援機関にむけてメッセージを送りました。続いて「10年後も選ばれている中小企業・地域になるために何をすべきか？」をテーマに各グループに分かれ討論。討論を通じて、会員からは「10年後の未来は外部環境に左右される。自社の経営理念を10年後も守り臨機応変に経営していく」「行政と中小企業がつながることで施策を創りたい」「地域も企業も人をどう集めるか。各々の魅力を発信し、社員共育にも注力したい」。また、行政・金融機関からは「事業者自身が自社の強みに気付いていないこともある。独自性を高める支援をしたい」「幅広い業種の経営者の声を聴き政策に活かしたい」「経営者の考えや取組みを生む声で聞けてよ



会員・行政・金融機関が一体となって学び合う

かった」「今後もこのような場に参加したい」と前向きな意見が多く挙がりました。

最後に、主幹支部を代表して大池盛一郎志太支部長から「会員だけでなく地域経済・地域社会を担う立場の皆さんと語りあえる機会となった。今後もこのような交流を企画していきたい」と挨拶し閉会しました。

静岡同友会では2025年ビジョンの地域づくりにて、中小企業と地域が手を取りあい人々の幸せが見える地域をつくらう、のスローガンと5つの方針①地域の現状や課題を常に把握する。②環境変化に適応する強靱な地域をつくる。③中小企業振興基本条例の制定と活用を推進する。④中小企業の声を地域に届ける。⑤地域の未来に

思いを馳せる」を掲げ、これらのビジョンの実現を目指しています。

志太支部長の大池盛一郎氏(有カライフ静岡)より当日の感想と志太支部・地域の展望を書いて頂きましたのでご紹介します。

参加者感想



大池支部長

今回の学習会において、同友会で日常的に行っている意識の高い経営者同士の交流、そして経営理念、経営指針の文化等を通じた経営者自身の経営力向上が、企業の成長においては最も重要だということが再確認できたことは大きな収穫でした。

志太支部としては今後も同友会活動を通じて、会員の経営力の向上、それに伴う志太支部の魅力向上、そしてこの地域に同友会の魅力を発信し、一人でも多くの経営者に同友会の仲間となって頂き、地域の中小企業のけん引役となり、結果、地域の中小企業全体が元気になっていければと考えています。また、各市行政、金融機関、NPO法人の皆さんとは本講演会で出来たご縁をきっかけに、これまで以上に中身の濃い連携をさせて頂き「10年後も選ばれる企業・地域」となれるよう、お互いに切磋琢磨できる存在になればと考えています。

大池盛一郎氏

(有)カライフ静岡／志太支部長

県経済産業部との意見交換会 行政と連携して「よい経営環境」 づくりを目指す

8月28日(月) 同友会会議室

県経済産業部との意見交換会が開催され、静岡県からは増田始己経済産業部長、就業支援局長、商工業局長ら9名、同友会からは正副代表理事をはじめ県政策委員、山本義彦顧問ら13名が参加しました。

はじめに賛成代表理事から「県庁との関わりは1999年に同友会が景況調査を開始したことをきっかけにスタートし、意見交換会は2005年より毎年開催してい



集合写真



増田経済産業部長



賛代表理事

る。また、2016年に静岡県で制定された中小企業振興基本条例の振興会議へ継続して参画。中小企業は厳しい状況下にあるが、地域行政と連携しながらよい経営環境、よい地域づくりを目指していきたい」とのあいさつがあり、増田始己県経済産業部長からは「新型コロナウイルス感染症が5類に移行して人の移動も増えている。インバウンドも好調な一方、物価高騰は資源高は長期化しており、中小企業は価格転嫁や賃上げ、脱炭素など様々な課題への対応に迫られている。適正な取引を促進し中小・小規模事業者の付加価値や稼ぐ力の向上につな

げる『パートナーシップ構築宣言』の賛同企業も増えており、今後も普及を促進していく。経営者の皆様においては地域課題の解決に取り組む姿を非常に



開催の様子

最後に松葉代表理事より「8月の中小企業庁の学習会でも、中小企業の魅力や強みが周知され、光があたるようにするために、中小企業自身が行動を起こすことが大切との話があった。伴走支援と言いますが、中小企業が走っていないければ、支援の手も届かない。このような意見交換会では今後も『小さな代表者』として積極的に発言していきたい」とのあいさつがあり閉会となりました。

会の対外的な取り組みを報告。行政・金融機関・教育機関など外部機関とどのような連携を行ってきたかを話しました。その後、同友会が提出した県への政策要望に関する回答をいただき、意見交換を実施。パートナーシップ構築宣言や中小企業振興基本条例をもとに地域の中小企業が活躍できる環境の整備を進めていくことや、再生可能エネルギー普及の展望、行政や教育機関のDX化についてなど幅広く地域課題の解決にむけて互いの意見を交換しあう時間となりました。

心強く感じる」とのあいさつがありました。続いて、松下県政策委員長より2023年上期景気動向調査の報告の後、井上代表理事より、同友



全体風景

グループ討論では事業承継をテーマに、オブザーバーの参加者もふくめて率直な悩みを語り合う時間となりました。次回は9月22日(金)久高洋司氏(株)高栄塗装・静岡支部)が報告します!

2019年の入社当時から会社を変えたいと思うも、当時社長であった父との対話が上手くいかない日々が続きました。後継者として何をすべきか分からず同友会に入会し、すぐに経営指針を創る会(以下、創る会)を受講。父との対話から逃げないことを決意、「他責」から「自責」に考え方が変わっていききました。また、創る会を通じて、今まで当たり前だと思っていたことが自社の「強み」だったことに気づきます。父の不調により自身が経営を指揮するようになってからは、労働環境や財務体制の見直しを進めていききました。2023年7月に4代目社長に就任し、理念を社内で発表した鈴木氏。「ここまで自社が存続できたのは同友会の仲間のおかげ」と語りまし

た。

8月イントロセミナー
自社の本当の強みは一番身近にある!
〜新社長が自社の未来を語る〜
8月25日(金) 同友会会議室
参加者16名

9月・10月

DOYU CALENDAR

9月16日(土)～10月15日(日)

9月 20日(水)	伊東例会 (19:00 ひぐらし会館) 沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ&ZOOM) 志太例会 (19:00 藤枝文化センター&ZOOM)
21日(木)	中遠例会 (19:00 ワークピア磐田)
22日(金)	イントロセミナー (19:00 同友会事務局&ZOOM) 県障がい者問題委員会 西部地区関係機関との 意見交換会 (19:00 藤枝文化センター)
25日(月)	女性部ダイヤモンドカレッジ (14:00 同友会事務局) 三島例会 (19:00 三島商工会議所&ZOOM) 浜松例会 (19:00 浜松こども館ザザシティ浜松中央館)
26日(火)	県50周年事業打合わせ (13:00 同友会事務局) 全県経営フォーラム実行委員会 (17:30 ZOOM) 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)
27日(水)	県政策委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)
28日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 県組織増強委員会 (17:30 同友会事務局&ZOOM)

29日(金)	第20期経営指針を創る会 第8講 (19:00 静岡ペガサート)
10月 4日(水)～ 5日(木)	中日本ブロック代表者会議 in 福井
5日(木)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
8日(日)～ 9日(月)	5108 (ごてんば) 産業フェア (例会振替) (御殿場市民会館)
10日(火)	静岡例会 (19:00 静岡ペガサート)
12日(木)	総務財務委員会 (16:00 同友会事務局&ZOOM) 浜松例会 (19:00 会場調整中)
13日(金)	若手社員フォローアップ研修 (9:50 静岡県総合社会福祉会館 シズウェル) 富士宮例会 (19:00 志保バイパス店&ZOOM)



《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》

静岡県中小企業家同友会会費 口座振替のお知らせ

口座振替日／2023年10月6日(金)

振替会費／令和5年度下期会費(令和5年10月～令和6年3月)

振替額／県会費30,000円と支部費(下記※の通り)の合計額

※伊東・三島・沼津・富士・富士宮・志太・榛南支部 6,000円、御殿場支部 12,000円

上記の通り、会費をご指定の口座から振替させていただきますので、ご確認をお願い致します。

なお、領収については、通帳への記帳をもって代えさせていただきます。

納入代行会社は「三井住友カード株式会社(旧SMBCファイナンスサービス)」、通帳印字は「SMBC(ドウユウカイ)」名で引き落としされますのでご注意ください。

全国からすぐれた環境経営の実践あつまる同友エコ 静岡から2社が同友エコ奨励賞を受賞！

中小企業家同友会全国協議会の環境経営委員会で毎年行っている同友エコ2022-2023の受賞企業が決定し、静岡からは2社が同友エコ奨励賞を受賞しました！

<同友エコ奨励賞>

- ・(株)松岡 Катター製作所(松岡 慶子氏・静岡支部)
- ・(株)アーティスティックス(長岡 善章氏・沼津支部)



同友会では「中小企業家エネルギー宣言」(2016年7月第48回定時総会(大阪))を採択し、中小企業団体ではいち早く環境経営に取り組んでいます。「同友エコ」アンケートは、①その実践状況の把握、②会員企業への環境経営の啓発、③先進的環境経営企業の発掘、を目的としています。今回は1512社の回答があり、そのうち上位59社について最終審査の結果、会長賞をはじめ5つの賞が授与されました。

すでにe-doyuから2023年度の「同友エコ」アンケートが配信されています。皆様のご回答をお待ちしています！